



平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月15日

上場会社名 デザインエクスチェンジ

上場取引所 東

コード番号 4794 URL <http://www.designexchange.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 森谷 一彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 前田 雅弘

TEL 03-5458-7038

四半期報告書提出予定日 平成22年11月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績(平成22年1月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	232	—	△180	—	△156	—	△214	—
21年12月期第3四半期	273	—	△399	—	△406	—	△408	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第3四半期	△227.12	—
21年12月期第3四半期	△554.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年12月期第3四半期	127	△837	—	△888.61
21年12月期	294	△666	—	△706.97

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 一百万円 21年12月期 一百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年12月期	—	0.00	—		
22年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	336	—	△198	—	△201	—	△201	—	△213.28

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 22年12月期3Q 944,250株 21年12月期 944,250株

② 期末自己株式数 22年12月期3Q 1,838株 21年12月期 1,838株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 22年12月期3Q 942,412株 21年12月期3Q 736,478株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日～平成22年9月30日）におけるわが国経済は、一部に回復の兆しが見られたものの、円高が急激に進行し、株価も低迷するなど不安定な国際金融情勢による景気悪化懸念が未だ予断を許さない状況にあります。

こうした中、広告宣伝の需要の長引く冷え込みは当社のコンテンツ需要への回復の遅れにつながっております。事業別の状況は次のとおりであります。

（デザイン事業）

Webコマース事業では、デジタル素材販売サイト「DEX WEB（www.dex.ne.jp）」を運営しておりますが、当第3四半期連結会計期間においても、同ポータルサイトにおける「満タンシリーズ」と「DEX IMAGE」に経営資源を投入しました。また、サイトのユーザビリティの向上に努めるとともに、フォントに関しても取扱ブランド数を大幅に拡充しました。

サービス事業については、郵便事業株式会社が運営する年賀状特設サイトでの年賀コンテンツの採用等、デザイン制作受託、コンテンツライセンス案件の受注等に努めてまいりましたが、主たる販売先であるパソコン関連業界におけるパソコン本体、周辺機器及びソフトウェア等の価格下落の影響を受け、案件単価が低下いたしました。

電子書籍事業では、大手携帯電話会社3社の公式サイトとして「コミック満タン」の配信を行っており、ハイクオリティーで多彩なフルカラーコミック、臨場感溢れるサウンドなど、漫画・アニメ世代の期待を超えたケータイコミックを配信しておりますが、売上高は低迷した状態が続きました。

（システムインテグレーション事業）

経済環境の悪化により、当第3四半期連結会計期間においても大幅な収益増加につながる案件は発生いたしませんでした。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の業績は、連結売上高61,038千円（前年同四半期比14.6%減）、連結売上総利益54,421千円（前年同四半期比82.1%増）、連結営業損失69,323千円（前年同四半期は連結営業損失143,059千円）、連結経常損失52,396千円（前年同四半期は連結経常損失122,457千円）となりました。更に、法人税、住民税及び事業税などを加減算した結果、四半期純損失は63,993千円（前年同四半期は四半期純損失122,997千円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、127,983千円となり、前連結会計年度末（294,445千円）に比べて166,462千円減少しております。これは主に、未収還付消費税が89,646千円減少したことによるものです。

負債は、965,423千円となり、前連結会計年度末（960,701千円）に比べて4,722千円増加しております。これは主に、短期借入金の増加によります。

純資産は、△837,439千円となり、前連結会計年度末（△666,256千円）に比べて171,183千円減少しました。これは主に、税金等調整前四半期純損失213,252千円を計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、景気回復の見通しが依然として不透明であり、現時点におきまして平成22年9月21日発表の連結業績予想の見直しは行っておりません。

当社の主力商品であり売上の大半を占める満タンシリーズの販売は、企業の広告宣伝費や販売促進費の抑制による発注の小口化、当社販売サイトを通じての売上低迷、当社営業部門の売上不振、等の要因により低下傾向にあります。

これらを早期に改善するために、当社では本年前半より販売強化戦略に取り組んでおり、各種マー

ケティング戦略の強化、優秀な人材の採用および社員教育等の強化策の立案実施等を進めてまいりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

1. 継続企業の前提に関する重要な疑義を抱かせる事象又は状況が存在する旨及びその内容

当社グループは、前連結会計年度に引き続き、当第3四半期連結累計期間においても、180,889千円の営業損失、214,037千円の連結四半期純損失を計上し837,439千円の債務超過となっており、また、センチュリー・ワイヤレス社から、28,188,716.73人民元の支払い請求を受けて、香港国際仲裁センターで争っております。以上の結果、当社グループには継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。

2. 当該事象または状況を解消し、改善するための対応策

①デザイン事業の収益向上

Webコマース事業においては、新ジャンルのコンテンツを新規投入するなど、ユーザーの更なる利便性向上を目的とした商品の見直しを行い、万全のサービス体制を整えて参ります。また、需要動向を把握し仮説検証に基づいたサービスをタイムリーに投入して参ります。具体的施策として今年5月に「ペイレスイメージズ株式会社」と高品質かつ低価格の写真素材定額サービスサイト『DEX 定額』の共同運営を開始しました。『DEX 定額』は幅広い業界のクリエイターをターゲットとした写真素材の定額制ダウンロードサイトで、当社の豊富な顧客基盤と「ペイレスイメージズ株式会社」の低価格かつ高品質の写真素材（35万点以上）という両社の強みを十分に生かしたサイトです。『DEX 定額』サイトは、期間ごとの料金設定となっており、ユーザーは同サイトでは一定価格で写真の大量使用ができ、サイト内の写真は1度ダウンロードすれば、条件の範囲内であれば半永久的に何度でも自由に使用でき、画像を大量かつ低コストで利用するユーザーにとっては最適サイトとなりました。このような当社の強みを生かした顧客への差別化戦略により収益改善を図って参ります。

サービス事業においては、マーケット開拓、既存顧客の安定化を図るべく法人向け素材の販売力を強化し、携帯機器各社への積極的なアプローチを仕掛けて参ります。

電子書籍事業においては、コンテンツの著作権者や権元との許諾提携を拡大し、携帯電話サイトやパソコンサイトなど電子書店サイトへのコンテンツの提供数の増大を図ります。また、許諾提携を受けたコンテンツについては、電子書籍として活用するだけでなく、多種多様な企業・パートナーと協力し、新たなソリューションとしても提供して参ります。

②徹底したコスト削減

社内業務体制の効率化を検証し、徹底したコストの削減を図って参ります。また、財務基盤を強化するため、当社の経営理念及び経営方針にご理解とご賛同をいただき、外部からの資金調達を実行して参ります。

③香港への仲裁案件への対処

センチュリー・ワイヤレス社からの28,188,716.73人民元の支払い請求に対しましては、先方の表明保証違反等を根拠に、当該請求が無効である旨を主張しております。

しかし、上記の対応策に関しては、営業施策面においては、計画どおりに推移しない可能性があり、また、香港での仲裁案件につきましては調停中のため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,410	46,928
受取手形及び売掛金	44,112	69,664
前渡金	50,968	29,206
短期貸付金	1,680	3,932
未収還付消費税	—	89,646
その他	10,017	8,076
貸倒引当金	△30,001	△1
流動資産合計	81,187	247,452
固定資産		
有形固定資産		
建物	25,585	25,585
減価償却累計額	△3,173	△3,173
減損損失累計額	△22,412	△22,412
建物(純額)	—	—
工具、器具及び備品	317,699	316,371
減価償却累計額	△170,541	△170,541
減損損失累計額	△147,157	△145,829
工具、器具及び備品(純額)	—	—
その他	472	—
有形固定資産合計	472	—
投資その他の資産		
投資有価証券	544	554
長期貸付金	15,422	15,422
差入保証金	22,063	25,077
求償権	74,000	74,000
破産更生債権等	29,969	26,439
長期前払費用	4,619	4,619
その他	3,094	—
貸倒引当金	△103,969	△100,439

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
投資その他の資産	45,744	45,674
固定資産合計	46,217	45,674
繰延資産	578	1,319
資産合計	127,983	294,445
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,257	16,593
短期借入金	※2 50,000	4,900
未払金	※2 557,254	※2 554,990
未払法人税等	5,584	7,281
預り金	16,924	18,172
企業買収関連引当金	※3 34,891	34,891
その他	4,755	3,870
流動負債合計	685,668	640,699
固定負債		
長期借入金	272,410	299,222
退職給付引当金	3,527	3,113
その他	3,816	17,666
固定負債合計	279,754	320,002
負債合計	965,423	960,701
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,232,070	2,232,070
資本剰余金	337,788	337,788
利益剰余金	△3,393,518	△3,179,276
自己株式	△42,989	△42,989
株主資本合計	△866,649	△652,407
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△31	△13,361
為替換算調整勘定	29,241	△486
評価・換算差額等合計	29,209	△13,848

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
純資産合計	△837,439	△666,256
負債純資産合計	127,983	294,445

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	273,171	232,053
売上原価	157,598	43,823
売上総利益	115,572	188,230
販売費及び一般管理費	※ 515,169	※ 369,119
営業利益	△399,596	△180,889
営業外収益		
受取利息	5	142
為替差益	11,837	30,648
その他	363	764
営業外収益合計	12,205	31,555
営業外費用		
支払利息	530	324
貸倒引当金繰入額	15,516	—
違約金	659	5,950
その他	2,877	1,058
営業外費用合計	19,584	7,334
経常利益	△406,975	△156,668
特別利益		
その他	61,086	0
特別利益合計	61,086	0
特別損失		
貸倒損失	116	30,000
減損損失	60,006	13,244
前期損益修正損	—	13,340
特別損失合計	60,122	56,584
税金等調整前四半期純利益	△406,011	△213,252
法人税、住民税及び事業税	2,164	785
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	2,164	785
四半期純利益	△408,175	△214,037

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
売上高	71,467	61,038
売上原価	41,587	6,617
売上総利益	29,879	54,421
販売費及び一般管理費	※ 172,938	※ 123,744
営業利益	△143,059	△69,323
営業外収益		
受取利息	3	48
為替差益	29,481	17,326
その他	23	236
営業外収益合計	29,508	17,612
営業外費用		
支払利息	63	176
貸倒引当金繰入額	7,940	—
違約金	61	427
その他	841	81
営業外費用合計	8,906	685
経常利益	△122,457	△52,396
特別利益		
その他	60,519	3,795
特別利益合計	60,519	3,795
特別損失		
貸倒損失	36	—
減損損失	60,006	—
前期損益修正損	—	13,340
特別損失合計	60,042	13,340
税金等調整前四半期純利益	△121,980	△61,941
法人税、住民税及び事業税	1,162	2,052
法人税等調整額	△145	—
法人税等合計	1,017	2,052
四半期純利益	△122,997	△63,993

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△406,011	△213,252
減価償却費	151,133	—
減損損失	60,006	13,244
貸倒引当金の増減額(△は減少)	14,588	33,530
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△8,011	414
返品調整引当金の増減額(△は減少)	521	—
受取利息及び受取配当金	△5	△140
支払利息	530	324
為替差損益(△は益)	—	△30,105
株式交付費償却	2,439	740
売上債権の増減額(△は増加)	55,445	18,268
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,240	—
仕入債務の増減額(△は減少)	△15,755	△335
未払金の増減額(△は減少)	△62,084	37,919
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	85,525
その他	△7,322	△22,187
小計	△213,285	△76,055
利息及び配当金の受取額	5	140
利息の支払額	△436	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,025	△2,482
営業活動によるキャッシュ・フロー	△215,742	△78,396
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△1,800
無形固定資産の取得による支出	△38,059	△11,916
差入保証金の差入による支出	△19,571	△69
差入保証金の回収による収入	1,378	3,064
著作権の取得による支出	△2,500	—
その他	—	2,251
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,752	△8,470
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	22,450	64,400
短期借入金の返済による支出	△33,950	△19,300
長期借入れによる収入	293,177	—
新株式申込証拠金払込による収入	132,200	—
その他の支出	△39	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	413,838	45,100
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,455	△650
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	142,798	△42,417
現金及び現金同等物の期首残高	647	46,928

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△100
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 143,445	※ 4,410

(4) 継続企業の前提に関する注記

1. 継続企業の前提に関する重要な疑義を抱かせる事象又は状況が存在する旨及びその内容

当社グループは、前連結会計年度に引き続き、当第3四半期連結累計期間においても、180,889千円の営業損失、214,037千円の連結四半期純損失を計上し837,439千円の債務超過となっており、また、センチュリー・ワイヤレス社から、28,188,716.73人民元の支払い請求を受けて、香港国際仲裁センターで争っております。以上の結果、当社グループには継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。

2. 当該事象または状況を解消し、改善するための対応策

①デザイン事業の収益向上

Webコマース事業においては、新ジャンルのコンテンツを新規投入するなど、ユーザーの更なる利便性向上を目的とした商品の見直しを行い、万全のサービス体制を整えて参ります。また、需要動向を把握し仮説検証に基づいたサービスをタイムリーに投入して参ります。具体的施策として今年5月に「ペイレスイメージズ株式会社」と高品質かつ低価格の写真素材定額サービスサイト『DEX 定額』の共同運営を開始しました。『DEX 定額』は幅広い業界のクリエイターをターゲットとした写真素材の定額制ダウンロードサイトで、当社の豊富な顧客基盤と「ペイレスイメージズ株式会社」の低価格かつ高品質の写真素材（35万点以上）という両社の強みを十分に生かしたサイトです。『DEX 定額』サイトは、期間ごとの料金設定となっており、ユーザーは同サイトでは一定価格で写真の大量使用ができ、サイト内の写真は1度ダウンロードすれば、条件の範囲内であれば半永久的に何度でも自由に使用でき、画像を大量かつ低コストで利用するユーザーにとっては最適サイトとなりました。このような当社の強みを生かした顧客への差別化戦略により収益改善を図って参ります。

サービス事業においては、マーケット開拓、既存顧客の安定化を図るべく法人向け素材の販売力を強化し、携帯機器各社への積極的なアプローチを仕掛けて参ります。

電子書籍事業においては、コンテンツの著作者や著作権元との許諾提携を拡大し、携帯電話サイトやパソコンサイトなど電子書店サイトへのコンテンツの提供数の増大を図ります。また、許諾提携を受けたコンテンツについては、電子書籍として活用するだけでなく、多種多様な企業・パートナーと協力し、新たなソリューションとしても提供して参ります。

②徹底したコスト削減

社内業務体制の効率化を検証し、徹底したコストの削減を図って参ります。また、財務基盤を強化するため、当社の経営理念及び経営方針にご理解とご賛同をいただき、外部からの資金調達を実行して参ります。

しかし、上記の対応策に関しては、営業施策面においては、計画どおりに推移しない可能性があるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

③香港への仲裁案件への対処

センチュリー・ワイヤレス社からの28,188,716.73人民元の支払い請求に対しましては、先方の表明保証違反等を根拠に、当該請求が無効である旨を主張しております。

しかし、上記の対応策に関しては、営業施策面においては、計画どおりに推移しない可能性があり、また、香港での仲裁案件につきましては調停中のため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

3. 四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映していない旨

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占めるデザイン事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占めるデザイン事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占めるデザイン事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占めるデザイン事業の割合が、いずれも90%を超えるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。